

「臨床と病理よりみた 膵癌類似病変アトラス CD-ROM付」

山口 幸二 著
田中 雅夫

第38回日本膵臓学会大会長/日本膵臓学会理事/国立病院機構九州がんセンター消化器内科

船 越 顕 博

膵癌は早期発見が困難で「21世紀に残された消化器癌」とも呼ばれている。しかも、予後不良な“膵癌”の診断法について詳細かつ正確にわかりやすく説明することは大変困難である。一方、厚生労働省研究班や各学会による癌の診療ガイドラインが最近続々と作成されている。しかし、これまで国内には、膵癌診療の全領域に関する科学的根拠に基づいた診療ガイドラインは存在しなかった。日本膵臓学会が、膵癌診療ガイドライン作成小委員会を設けて作成にあたり、2006年3月に『科学的根拠に基づく膵癌診療ガイドライン2006年版』（金原出版）を発行した。本ガイドラインでは、対象を“膵癌”診療にあたる臨床医とし、一般臨床医に効率的かつ適切に対処できるよう配慮されている。さらに、患者さんや御家族など一般市民の方が“膵癌”への理解を深め、医療従事者と患者側の相互が納得したうえで医療が選択され実行されることも意図されている。しかしながら、この

ガイドラインをもってしても膵癌の早期診断にはほど遠い現状である。

膵癌診断の現場では画像診断で膵癌との鑑別診断に迷う腫瘍様病変を体系的にまとめたアトラスは少ないと思われる。九州大学大学院医学研究院臨床・腫瘍外科の山口幸二先生、田中雅夫先生による『臨床と病理よりみた膵癌類似病変アトラス』を活用することにより、前回上梓された『小膵癌アトラス』の姉妹版として（著者らも序文で記載しているように）、小膵癌を含めた膵癌診断の一助となるものと思われる。

著者らは豊富な経験を有する膵臓外科医であり、膵癌の診断と治療の本邦における第一人者である。本書は膵癌と鑑別困難な膵癌類似病変を第1章で総論的に整理し、第2章以降各論では腫瘍形成性膵炎・自己免疫性膵炎・血流に富む膵腫瘍（膵内分泌腫瘍、膵漿液性嚢胞腺腫、Solid-pseudopapillary tumor, Gastrointestinal stromal tumor, パラングリオーマ、膵過誤腫）・転移性

の膵腫瘍・リンパ節病変（悪性リンパ腫、結核症、Castleman病、成人T細胞白血病）・膵管の限局性狭窄病変（膵管融合不全、膵管狭窄）・その他各病変（膵脂肪性腫瘍、膵臓の動静脈奇形、膵腫大と消化管誤認）等の病像を鑑別診断とともにわかりやすく説明したうえで、自験症例の画像診断および病理所見を含め詳細にまとめ上げている。その所見がCD-ROMに添付されているのは読者にとっても大変便利である。

膵癌の診断法について詳細かつ正確にわかりやすく理解することは大変困難であり、本書と『小膵癌アトラス』は今後の膵臓病診療に大変役に立つ良書であり、膵臓病の診断・治療に関する理解を深めるに役立つと確信し、早期膵癌発見の一助になることを切望する。

● A4 頁168 2007 定価17,850円
（本体17,000円＋税5%）

医学書院 刊（☎ 03-3817-5657）